

## カンガルーシップ活動

## 就労支援プロジェクト 実施報告書

報告日 平成30年2月26日

主管学校名 金沢大学附属特別支援学校

PTA会長名 米沢 正幸

実施概要	主管校	金沢大学附属特別支援学校
	交流校	
	実施活動名	卒業後の就労や生活について考える①
	実施日時	平成29年10月13日(金)、
	実施場所	(株)東振精機、特定非営利活動法人太陽クラブ、社会福祉法人佛子園行善寺
	実施目的	企業、福祉の事業所を見学し卒業後の就労や生活を考える。
	実施内容	卒業生が働く企業、卒業生が利用するグループホーム、多機能の福祉事業所見学
	実施方法	バスにて各事業所を見学し、昼食時に感想等を話し合う。
	参加人数	28名

報告事項	内容	<p>(株)東振精機の見学 法定雇用率を大きく上回る2.7%の障害がある人を雇用している。 本校の卒業生が働いていて、会社の概要をお聞きすると共に仕事の様子を見学させていただく。 就業時間や仕事の内容を本人のわかりやすいように配慮されていた。</p> <p>特定非営利活動法人太陽クラブ 定員10名のグループホームを見学 理事長の設立の思いや利用者の生活の様子や入居後の成長ぶり、学齢期の子育てで心がけたいことなどを聴く。</p> <p>社会福祉法人佛子園行善寺 大規模の法人で多機能に事業を展開している。地域の方や高齢の方、障害のある方ごちゃまぜの地域作り展開している。そばを中心としたレストランがあり、そこで昼食をとりながら見学のふりかえりを行う。</p>
	結果	<p>参加者は企業で働く厳しさと共に、必要な配慮を丁寧にいただいていることを知り、企業就労に対して安心感と期待感を持つことができた。</p> <p>また、グループホームの見学では我が子を手放すことに抵抗や不安が多くあったが、成長と共に親とではなく仲間と共に生活することで成長することを知ると共に、ずっと障害がある人の味方になっていてくれる人の存在を知り心強く感じた。</p> <p>行善寺では食事をしながら和気藹々と思いを語り合うことができ、学びと共に良いリフレッシュの機会ともなった。</p>
	所感	<p>毎年恒例の育友会行事であるが、実際に働いたり生活したりしている現場を見ることは、我が子の将来を考える上で大変貴重な機会となっている。</p> <p>今回は、見学にあわせてそれぞれの場所で話を十分に聴くことができたことも良かった。</p>

添付書類

報告書



## カンガルーシップ活動

## 就労支援プロジェクト 実施報告書

報告日 平成30年2月26日

主管学校名 金沢大学附属特別支援学校

PTA会長名 米沢 正幸

実施概要	主管校	金沢大学附属特別支援学校
	交流校	
	実施活動名	卒業後の就労と生活について考える②
	実施日時	平成29年12月16日(土)
	実施場所	金沢市学生のまち市民交流館
	実施目的	主に父親を対象とし、福祉の制度や卒業後の生活について研修する。
	実施内容	グループホーム運営者からグループホームの生活の様子を聴く
	実施方法	講義と意見交換
	参加人数	15名

報告事項	内容	グループホームを運営している経験を元に、利用者の生活や成長の様子を話していただいた。 また、講義の中で福祉制度にも触れていただいた。 講義の後、意見交換会を持ち日頃の疑問や悩みも話し合った。
	結果	家庭的で自由度の高いグループホームの運営に努めている中で、最初は親元を離れることに本人も家族も大きな不安を持つが、すぐに仲間との生活の方が楽しくなることや、仲間と学び会い洗濯や掃除、お金の管理など生活力が高まることをした。 参加者の多くは父親だったが、母親に比べて福祉に関する情報を知らない方も多く、具体的な内容に関心を深め、我が子の将来について考える良い機会となった。
	所感	父親が就労ではなく生活場面の話を聴く機会は少ない。 今回、グループホームでの生活の様子を知ることでは我が子の将来の生活を考える良い機会となった。 父親も、このような機会に積極的に参加して学ぶことは必要であると再認識した。 育友会としても積極的に研修会の実施に取り組みたい。

添付書類

報告書



## カンガルーシップ活動

## 就労支援プロジェクト 実施報告書

報告日 平成30年2月26日

主管学校名 金沢大学附属特別支援学校

PTA会長名 米沢 正幸

実施概要	主管校	金沢大学附属特別支援学校
	交流校	
	実施活動名	卒業後の就労や生活について考える③
	実施日時	平成30年2月22日
	実施場所	金沢大学附属特別支援学校
	実施目的	「はたらく」ことについて考える
	実施内容	特例子会社社長や就労支援機関で働く方を招聘し、その方達の講義と意見交換
	実施方法	講義と意見交換
	参加人数	27名

報告事項	内容	<p>講師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)三越伊勢丹ホールディングス特例子会社 (株)三越伊勢丹ソレイユ</li> </ul> <p>代表取締役社長 四王天正邦 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定非営利活動法人WEL'S 新木場</li> </ul> <p>就業・生活支援センターWEL'S Tokyo センター長 堀江美里 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定非営利活動法人リエゾン（本校連携移行支援事業所） 所長 中山肇 氏</li> </ul> <p>それぞれの講師から、現在の仕事をするに至る当時の思いと現在の支援の状況について、DVDや資料を元に話していただく。</p> <p>随時、参加者からの質問や意見を出してもらいながら座談会のように研修を行った。</p>
	結果	<p>「はたらく」ことについて、情熱を持って支援していただいている方がいることに勇気と元気をもらった。特例子会社の現場では重度の方も働いており、障害の軽重ではなく、諦めないで努力する力や教わる力などが大切であることを知った。</p> <p>就労支援機関の方のお話からは、就職できないから就労継続A型・B型ではなく、本人の強みをしっかりと見つけると共に、本人の気持ちもしっかり聴き取りながら「はたらく」場所をマッチングしていく大切さを学んだ。</p> <p>また、失敗も含めて沢山のことを子どものうちから体験すること、焦らずじっくりと取り組み、子ども自身に考える機会を保障することなど、現在の子育てに参考になった。</p> <p>学校からの話もあり、学校と支援機関の連携の中で子どもたちの強みと職務のマッチングが行われている現状を知ることができた。</p>
	所感	<p>今回は企業就労を目指す保護者だけでなく、福祉就労を希望する保護者も参加していたが、共に講師の方々の障害がある人の生活</p>

添付書類

参加者感想、画像











# カンガルーシップ活動 就労支援プロジェクト 参加感想

提出日	平成30年2月26日
学校名	金沢大学附属特別支援学校

10月13日(金)

保護者感想は報告書に記載

12月16日(土)

保護者感想は報告書に記載

2月22日(木)

- ・参加して良かった。子どもと仕事について少しずつ話していきたい。
- ・講師の方の考え方、取り組みに感銘を受けた。自分自身も子どもについて考え直してみたい。
- ・四王天社長のお話を聴くのは2回目。有意義な時間だった。「人に伝わっているという経験が大事」ということが印象に残った。失敗を恐れずに親子とも成長していきたい。
- ・特別な技術技能を身につけさせるより、人との関わりができること、基本的な生活習慣を身につけることが重要だと感じた。
- ・子どものことで悩んでいるが少し光が見えた。
- ・座談会方式で、他のお母さんの考えを聴くことができて良かった。
- ・本人の満足する居場所を作る。その居場所として働く場所があるということを知りました。
- ・子どもの将来を考える上で、様々な取り組みや成功事例を学ぶことができて有意義だった。車座で参加者同士の意見をキャッチボールできたのも良かった。ソレイユの一つの作業に固定しないで様々な仕事をこなせるようにしていることはすばらしいと感じた。
- ・親の障害受容を早くし、子どもと向き合うことが大切だと感じた。障害があっても幸せに生きられると元気になった。
- ・車座で聴きやすかった。改めて社会に送り出す親の気持ちを考えた。
- ・座談会方式でフランクに話し合うことができて良かった。卒業生の保護者の話もあり充実した研修会となった。
- ・前回四王天社長のお話を伺った時に希望を持ったが、今回も同様だった。一つの仕事だけでなく様々なことに取り組むことで人としてのスケールも広がり、視野を広げることにつながることを学びました。
- ・将来の不安が大きかったが、今日の講師の方々のような支援者がいて少し安心した。
- ・まだ小学部1年生で就労のことが分かりませんでしたが、少し安心し、これからの希望になりました。
- ・いろいろな話を聴くことができて良かったです。
- ・18歳で社会に出ることにとらわれずに、長い人生、じっくり本人の気持ちを聴きながら考えていきたいと改めて思った。
- ・座談会形式でなく、変わる福祉制度のことや石川県の実状など今後のことを考える上で役立つ知識を得たかった。
- ・これまで就労のことはあまり考えてこなかったが、子どもにとってよりよい仕事先を探していきたいと決意を新たにしました。

平成29年10月26日

育友会会員各位

金沢大学附属特別支援学校

育友会会長 米沢 正幸

副会長 小池由美子

## 施設見学報告

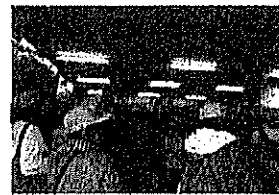
晩秋の候、みなさまにはますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。

10月13日に施設見学が行われ、お父さんの参加もあり、28名の方にご参加いただきました。

(株)東振精機、NPO法人太陽クラブの2か所を見学し、お話をお聞きしてきました。見学後は、行善寺やぶそばにて、美味しいお食事を頂き、楽しい見学会となりました。

### ◆能美市 (株)東振精機 (一般就労)

- ・国の基準を上回る障害者雇用者を実現 (2.7%)
- ・就業時間や仕事内容を、本人のやり易いように調整
- ・福利厚生は正規従業員と全く同等
- ・本校出身のY君がこの春から勤務しており、無遅刻無欠席で仕事のこなしぶりもハイレベル
- ・保健師を常駐 心身の健康に目配りしている。



### ◆能美市 NPO法人太陽クラブ (グループホーム)

- ・障害のある人達が実家を離れ、スタッフの生活援助を受けつつ共同生活をしている。
- ・費用 月に約5万円、近隣の病院と連帯。開設15年でスタッフの高齢化が課題。
- ・身のまわりのことは、最初は全くできない人がほとんどだが、洗濯や食事の支度などを少しずつ覚え協力しあっている。
- ・各家庭ごとに様々な事情や考えがあるが、グループホームという場所をひとつの選択肢としてとらえてもらえたらいい
- ・Y君も家を出て、ここで暮らしているが、どの子もすぐに慣れ皆との生活を楽しむようになる。

### ◆白山市 行善寺やぶそば

- ・障害者の方が調理や配膳をして働いている。





・東振精機を見学させていただいて会社には本人の状態（性格等）をよく分かっていて下さる方がいると安心するものだなあと改めて感じました。グループホームは、以前から見学してみたいと思っていたのですが、将来に向けていろいろ考えさせられました。本人のよりよい生活に向けて親子共々話し合っていきたいと思います。今日は有難うございました

・暖かい会社に、驚きました。声掛けを機をくけ、普通に接して下さる事に感動です子供の自立に寄り添って下さる雰囲気がとても素敵でした。本日はお世話頂きありがとうございました

・東振さんの担当の方は障害に対する理解も深くて感心しました。働いている人の生き生きしていて良かったなあと思いました。

・東振精機総務部の素様が、ご家族に障害者がおられるとおっしゃりながら随分会社での障害者の方の様子を説明していただきました。とても身近に感じられいろいろお聞きすることができました。NPO法人太陽クラブグループホームを石川県で初めて手掛けたNPO法人ということでいろいろお話を伺えました。

・東振さんは障害特性をととてもよく理解されておられよい環境で働かれていますと羨ましく思いました。

・グループホームを見学したのが初めてだったのでとても参考になりました

・東振グループさんでは企業としての雇用の取り組みが素晴らしいなと思いました、身近に障害者のいる方が理解者となり、周りの人々に伝えていけるととても説得力のあるパターンだと思います。どこの会社でもこういった取り組みをしてくれば一人一人に合った仕事に就けるのではと思います。太陽クラブは二回目となりますが、どこもきれいに使われており感心しました。運営側の高齢化が問題なのもわかりました。行善治は一度行ってみたかったので、今回参加できて良かったです。

東振さんも太陽クラブさんも、皆さん暖かい方ばかりで、貴重なお話を聞くことができ勉強になりました。自分自身も人間性を磨きたいと思いました。おそば屋さんは初めて知りました。また利用したいです



## 金沢大学附属特別支援学校 2017 年父親部会研修会実施報告書

### 〈実施概要〉

実施日 平成29年12月16日（土）  
会 場 金沢市学生のまち市民交流館  
参加者 15名  
講 師 特定非営利活動法人太陽クラブ 理事長 地井暢子氏  
内 容 小規模ながら障害がある人が地域で普通に暮らすために有志と共にグループホームを運営している経験から、利用者の生活の様子を通して子育てや将来の生活に関する話を話していただいた。  
小規模の特性を活かし、家庭的で自由度の高いグループホームの運営に努めている中で、最初は親元を離れることに本人も家族も大きな不安を持つが、すぐに仲間との生活の方が楽しくなることや、仲間と学び合い洗濯や掃除、お金の管理など生活力が高まること伝えていただいた。  
参加者の多くは父親だったが、母親に比べて福祉に関する情報を知らない方も多く、具体的な内容に関心を深め、我が子の将来について考える良い機会となった。

### 〈参加した父親の感想〉

特定非営利活動法人太陽クラブの理事長の地井暢子さんのお話を、将来、わが子が生活することを想像しながら伺った。入居しておられる方の様子を具体的にお話して下さった。特に印象に残ったのは入居者の方が望む生活のために寄り添って支援されていることでした。また、入居者同士が共同生活をする中で、家族以外の人と生活するルールや関わり方を身につけていかれていることでした。そして、入居者の方たちがとても楽しそうに過ごしている様子が良く分かり、わが子も自分のやりたいことを叶えて生活してくれたらと感じました。

